

文部科学省科学技術試験研究委託事業

2022年3月発行

最終号

Vol. 5

数学アドバンスイノベーションプラットフォーム

NEWSLETTER



CONTENTS

巻頭言	1	企画報告	4
令和3年度 AIMaP 訴求企画一覧	2	技術相談・マッチング	5
協力拠点代表より	2	産業界・諸科学との協働による研究事例の発信	6

巻頭言

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所を受託機関とする「数学協働プログラム」の後継として始まりました文部科学省科学技術試験研究委託事業「数学アドバンスイノベーションプラットフォーム(AIMaP)」も残すところあと僅かとなりました。これまで、12協力拠点の皆様方を始め、産業界や諸科学分野の方々も含めて、本事業にいただきました多大なるご支援、ご協力に対し、幹事拠点代表として深く感謝申し上げます。

本AIMaP事業の大きな成果の一つとして、日本における数学・数理科学とその異分野連携の主要な拠点を束ね、全国ネットワークを構築したことが挙げられます。産業界や他分野から寄せられた相談に対して、数学・数理科学を横串としたオールジャパンの連携体制で課題にあたり、幹事拠点も含め全国13のそれぞれの拠点が専門性や特色を生かし対応を行ってまいりました。このような大きな受け皿が整備されると、眼前の課題に時間を割かれがちな相談者の側からも気軽に相談を持ち掛けやすくなるものと想像されます。AIMaPの13拠点はこれまで、3か月に一度ほどの定期報告・情報交換会を開催してきたほか、不定期に少数の協力拠点グループごとにオンライン意見交換会などを催すことで、各拠点の最新の研究活動の一端や、寄せられる相談、課題を集約して、それらをニーズとシーズ情報として昇華しつつ、マッチング活動に生かしてきました。5年間という限られた期間の中ではありましたが、少しずつ耕し続けた土壌には多くの萌芽が期待されるようになり、社会貢献やその波及効果といった芳醇な実りをもたらすものと自負しております。こうした活動は、AIMaP事業終了後も九州大学マス・フォア・インダストリ研究所(IMI)が中心となって続けてゆく所存でありますので、皆様のご協力を切にお願いしたいと思います。

こうしたネットワークを有効に活用しながら、コロナ禍などの社会情勢の荒波に負けず、各協力拠点においては強みを生かした訴求活動を実施いただきました。そして、それらをきっかけとして共同研究につながるなどの成果が出てきています。さらに、幹事拠点のシニア・コーディネーターとコーディネーターを中心として行っている企業等への直接的なコンタクト活動も、担当者の粘り強いアプローチと協力拠点の真摯なご理解による連携協力が功を奏し、一層活発化してきております。こうした数学・数理科学分野自身が出発点となった全国規模のプラットフォームと、この基盤を最大限活用した一連の活動は、本AIMaP事業ならではのものです。複数の拠点が手を携えて新規のアプローチを推進するにあたり、文部科学省委託事業として国主導のもとで行うことができたことは、非常に意義深いと考えております。

さらに、本AIMaP事業に関わっている数学・数理科学拠点のみならず、我が国の様々な拠点においてもそれぞれ独自の取組みを進めており、それが数学・数理科学の発展や他分野との連携拡大へと結びついています。特に、第6期科学技術・イノベーション基本計画で数理・データサイエンス・AIが強調されたこともあり、数学・数理科学とその異分野連携は市井からの大きな期待を背に発展への機運が一気に加速しているように思います。今まさにそうしたねりを総体的にとりまとめてさらに盛り上げてゆくための国の主導的役割に期待が集まっています。数学協働プログラムから足掛け10年、数学・数理科学の振興が如何に我が国の未来を切り開く力となり得るか、文部科学省が先導する形でその有効性を強く打ち出していただくべき時機に立っています。施策として名実ともに国の後押しをいただけることは、数学・数理科学の異分野連携に携わる皆様の積年の想いであると同時に、目下DX推進を進めている産業界からも等しく切望されている体制であると確信しております。

AIMaP事業は今年度で終了を迎えますが、来年度以降もPost-AIMaP(π MaP)活動として、幹事拠点の九州大学IMIが中心となり、数学・数理科学を基盤とする協力拠点との連携関係を大切にしながら、進めてゆく所存であります。コロナ禍あるいは気候変動、そしてウクライナ情勢など、人類未曾有の危機に直面している今、変革を恐れず、大賢虎変の精神で皆様と共に歩んで参ります。末筆ではございますが、今後とも、関係各位の皆様方から変わらぬご高誼を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

AIMaP代表
九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 所長

佐伯 修



令和3年度 AIMaP訴求企画一覧

全国12協力拠点と幹事拠点において分野融合的な企画や産学協働の企画など、多彩な訴求活動を展開しました。

ワークショップ等名称	主催拠点	開催方法・場所	開催日程
SICE-JSAE-AIMaP Advanced Automotive Control and Mathematics	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所	オンライン (上智大学四谷キャンパス)	2021/ 9/ 8～2021/ 9/ 8
アジア・太平洋における数理融合イノベーションの場の形成 Mathematical Interdisciplinary Innovation in Asia-Pacific	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所	オンライン	2021/11/13～2021/11/13
AIMaP公開シンポジウム 「数学イノベーションは社会を変革できるのか ～AIMaP成果と今後の戦略的展開～」	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所	オンライン	2022/ 3/10～2022/ 3/10
諸分野・企業からみた数理学ととの連携	北海道大学電子科学研究所 附属社会創造数学研究センター/ 大学院理学研究院数学部門	オンライン	2022/ 2/16～2022/ 2/16
数理科学オープンイノベーションセッション	東北大学数理科学連携研究センター/ AIMR数学連携グループ	オンライン	2021/12/ 8～2021/12/22
第6回筑波大学RCMSサロン「トポロジーおよびその応用」	筑波大学数理科学研究コア	オンライン	2021/ 7/14～2021/ 7/14
第8回筑波大学RCMSサロン「ウェブレットフレームとその応用」	筑波大学数理科学研究コア	オンライン	2021/12/ 2～2021/12/ 2
2021理研シンポジウム「計算で物事を理解する予測する」	理化学研究所	オンライン	2021/11/25～2021/11/26
データサイエンスが描き出す「モノづくり」の未来シナリオ	情報・システム研究機構 統計数理研究所	オンライン	2021/ 6/17～2021/ 6/17
W01100 高度な自動運転を実現するための数理の現状と課題 [計算力学部門, 設計工学・システム部門企画] (日本機械学会 2021年度年次大会)	明治大学先端数理科学インスティテュート	オンライン (千葉大学西千葉キャンパス)	2021/ 9/ 7～2021/ 9/ 7
AIMaP企画:メタマテリアルの数理科学 (第12回横幹連合連合コンファレンス企画セッション)	明治大学先端数理科学インスティテュート	オンライン (筑波大学筑波キャンパス)	2021/12/19～2021/12/19
第5回 精度保証付き数値計算の実問題への応用研究集会 (NVR 2021)・JST/CREST 「モデリングのための精度保証付き数値計算論の展開」成果報告会	早稲田大学数理科学研究所/理工学術院	オンライン	2021/11/27～2021/11/28
ICMSワークショップ: サステナブルな水産利用に向けた数理科学連携の可能性	東京大学大学院数理科学研究科/ 附属数理科学連携基盤センター	オンライン	2021/12/17～2021/12/17
次世代産業を支える数理科学の展開 スタディグループ1 「機械学習による業務用食材の出荷量予測」	名古屋大学大学院多元数理科学研究科	ハイブリッド (名古屋大学理学部)	2021/11/11～2022/01/20
次世代産業を支える数理科学の展開 スタディグループ2 「地域配送のルート提示(ナビゲーション)システムの構築」	名古屋大学大学院多元数理科学研究科	ハイブリッド (名古屋大学理学部)	2021/12/ 9～2021/12/ 9
数理科学・計算科学の産学連携	京都大学数理解析研究所	ハイブリッド (京都大学数理解析研究所)	2022/ 2/ 4～2022/ 2/ 4
MMDS主催講演会・討論会 「網羅的蛋白質合成システムと数理科学が拓く 細胞内シグナル経路解明の新展開」	大阪大学数理・データ科学教育研究センター	オンライン	2021/ 7/17～2021/ 7/17
生体工学と数学の接点を求めて	大阪大学数理・データ科学教育研究センター	オンライン	2021/10/ 5～2021/10/ 5
形から紐解く生命科学のデータと数理 Geometry-based Data and Mathematical sciences for Life (2021年度日本数理生物学会年会・企画シンポジウム)	広島大学大学院理学研究科/ 統合生命科学研究科	オンライン	2021/ 9/13～2021/ 9/13

上記の協力拠点の訴求企画以外にもAIMaPの全国規模のネットワークを生かした幅広いイベントについて広報支援を行い、数学・数理科学の魅力を多くの方にお伝えすることができました。

協力拠点代表より

北海道大学電子科学研究所附属社会創造数学研究センター

長山 雅晴 教授

北海道大学では電子科学研究所と理学研究院数学専攻と共同でAIMaP事業に参加させて頂きました。初年度から諸分野融合研究や産学共同研究の展開についての研究会等をAIMaPからの支援を受けて開催することができました。AIMaP事業の特徴であるフォローアップによって、新しい共同研究が生まれ多くの研究成果を生むことができました。この成果はAIMaP事業の支援体制あつてのことだと思ひます。このプラットフォームで培った数学・数理科学拠点の活動を今後さらに発展させていくことができると感じております。

東北大学 数理科学連携研究センター/材料科学高等研究所AIMR数学連携グループ

水藤 寛 教授

東北大学では、AIMaP事業開始直後の2017年に企画させて頂いた医学系学会での数理科学セッション実施という試みから始めて、AIMaPの支援を数多くいただきました。AIMaP事業での一貫した支援体制やフォローアップによって、それぞれの企画がその場限りにならず、その後の発展性を検討していくことができたのは、このような事業形態の効用と思います。このプラットフォームで培った全国の数理科学系拠点の活動を今後さらに発展させていく必要があると感じています。

筑波大学 数理科学研究コア(RCMS)

照井 章 准教授

2020年4月より、拠点代表補佐として、訴求企画の運営やAIMaPの各種打ち合わせ等で、幹事拠点の先生方および事務の皆様、ならびに各拠点の皆様に変なお世話になりましたことに感謝申し上げます。コロナ禍でAIMaPでもそれ以前と活動の形態が大きく変化したものと思いますが、オンラインで行われた各拠点との意見交換会は、各拠点の産学連携の状況を知る上で大変参考になりました。このような形の交流も、数理科学分野での産学連携を進める上で有益なものと感じますので、今後も拠点間の交流が図られることに期待したいと思います。

理化学研究所 数理創造プログラム(RIKEN iTHEMS)

坪井 俊 副プログラムディレクター

九州大学マス・フォア・インダストリ研究所のメンバーの皆様にはAIMaPプログラムの遂行にご尽力いただき誠にありがとうございました。RIKEN iTHEMSは数理科学とさまざまな分野の学術研究とつなぐことをAIMaPプログラムとの連携においても行わせていただきました。特に『理研シンポジウム 計算で物事を理解する予測する』を一貫してサポートいただきありがとうございました。今後もマス・フォア・インダストリ研究所の活躍で数学の様々な分野を産業応用につないでいただけることを期待しております。

明治大学 先端数理科学インスティテュート(MIMS)

山口 智彦 副所長

自動走行車には乗員との協調制御という高度な感性問題があります。自動走行車が危険をいち早く察知して的確な回避策をあらかじめ用意する、また、乗員の気持ちを常に把握して安心感を与えつつ対処する——そのためには、リアルタイム最適制御が可能な唯一の技術であるエネルギー最適制御法と、因果がわかりかつリアルタイム性もある機械学習技術という、2つの基幹技術の汎用化が必要でした。これらの技術の開発を共同的かつ加速的に進める上で、訴求企画・コーディネート制度・再委託というAIMaP事業の複合的な仕組みが大いに役立ちました。

情報・システム研究機構 統計数理研究所

橋 広計 所長

数学と諸科学・産業界との連携は、数学が社会に果たすべき機能に対する理解の増進に繋がりました。この理解を形式知化すれば、産業界の課題受付から解決までの次世代数学研究者によるコンサルティングも、益々円滑なプロセスとして確立すると信じます。なお弊所では、人工知能・モノづくりをテーマとしたデータサイエンスに関する講演会・シンポジウムに共催頂き、産業界からも多数の参加者を得ました。Post-AIMaP活動でも一層の連携をお願い申し上げます。

早稲田大学 数理科学研究所/理工学術院

大石 進一 教授

数学は古代ギリシャ時代から人の叡智の集合体としての知を意味していましたが、特にニュートン以来科学的予測に極めて有用であることが示され、科学技術の進展と共に発展してきました。その中で数学のいろいろな側面が取りあげられてきました。現代において社会に貢献する数学という側面が大きく取りあげられ注目を集めていることは数学を研究するものとしては大変喜ばしいもので、その意味でもそれを推進して下さっている文部科学省に感謝しています。また、AIMaPはそのとりまとめという大きな仕事に取り組みされて大きな役割を果たされたことに深く敬意を表します。早稲田大学数理科学研究所もそのような潮流を盛り上げるように今後とも活発に活動を継続したいと考えています。特に、ICIAM2023を2023年8月に早稲田大学本部キャンパスで開催いたします(遠隔開催の可能性もあり)ので、皆様のご支援を御願いたします。

東京大学大学院数理科学研究科附属数理科学連携基盤センター

齊藤 宣一 センター長

AIMaP事業を通じて、数理科学と諸科学・産業の協働研究促進を目指す全国の研究拠点の皆さんと、定期的に意見交換ができたことは、何より大きな財産になりました。コロナ禍での訴求企画では、オンラインであることを利用した成果公表についての新しい方法を模索する良い機会が得られました。また、数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会2021の開催準備に際し、共催機関の一つとして時に手を携え、時に裏方として支えてくださったのは、心強いことでした。広い視野で数理科学の社会貢献の推進をサポートする機関の存在の大きさを感じました。

名古屋大学 多元数理科学研究科

木村 芳文 教授・大平 徹 教授

名古屋大学・多元数理科学研究科ではこの5年間にわたり、AIMaP活動として、スタディグループを開催しました。前半は製造業からサービス業、大手からベンチャーまで様々な形態の企業に参加いただきました。参加の学生にとっては数学や数理的思考が意外と幅広く現場で活用されていることを知る良い機会となり、実際に参加企業へ就職したものもありました。後半では流通系の地場企業に焦点を絞り、現場で使われる配送ルート決定システムや食材消費予測システムの開発などに協力しました。単に議論をするだけでなく、自らのアイデアが現場で活用されるというのは、参加学生にとっては一段貴重な経験となったようです。

京都大学 数理解析研究所

熊谷 隆 所長

新たな協働の芽を育む上で、AIMaPのような組織的な取り組みが重要な推進力になるという確かな可能性と手ごたえを、事業に参画させていただく中で感じられた五年間だったように思います。AIMaPは終了しますが、もとより産業界・諸科学との連携強化は、事業期間の枠を超えて我が国の数学界全体が取り組むべき課題です。本事業で培われたネットワークが、今後も実りある協力関係に発展してゆくことを期待しております。

大阪大学 数理・データ科学教育研究センター

中澤 嵩 准教授

大阪大学MMDSは数理科学、諸科学(医学、工学や金融工学)、産業界との橋渡しとなるイベントを開催してきました。特に、本学基礎工学部をはじめとして、ダイセル・エンジニアリング・サイエンス共同研究講座(基礎工学部産学連携センター)、接合科学研究所と共同で開催したStudy Groupでは大きな反響を得ることが出来ました。このような活動を通じて、「学部生/大学院生」・「人文/理工/生命科学の諸分野に渡る学術機関の研究者」・「産業界の技術者」が数理科学を糊代として相互に交流できる場を形成し、今後の展開に大きく貢献できたと考えております。

広島大学 大学院統合生命科学研究科

飯間 信 教授

私は、前任者の転出に伴い後任を託されたため半年ほどしかAIMaP事業に関わる事ができず、気がつけば事業終了にむけたまとめが始まっていました。しかし、そうした中でも事業を真摯に実行されてきた関係者皆様のご努力を感じることが多く、全く頭が下がる思いであります。全国の数学・数理科学に関わる諸科学と産業界のネットワークを構築するという取り組みは大変意義深いことだと思っておりますので今後も是非続けていただければと思っております。この度は、本事業に参加する機会をいただいて誠にありがとうございました。

企画報告

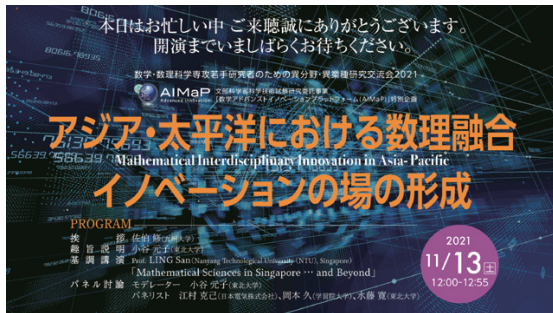
「アジア・太平洋における数理融合イノベーションの場の形成」 Mathematical Interdisciplinary Innovation in Asia-Pacific

2021年11月13日(土)「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会2021」の中で特別企画として「アジア・太平洋における数理融合イノベーションの場の形成/Mathematical Interdisciplinary Innovation in Asia-Pacific」を実施しました。

コロナ禍、国際的な連携を強化し未曾有の課題に当たることの重要性が再認識されました。特に持続的発展のための目標(SDGs)に関してアジア・太平洋地域における共通課題解決に向けて方向や具体策を見定めることや、国際的人材を育成するためのプラットフォーム形成の必要性に時代が目を向け始めています。この流れは文部科学省研究振興局における「アジア太平洋数理・融合研究戦略検討会(座長 日本応用数理学会前会長 岡本久教授)」の報告書(令和3年7月16日)*において整理されています。本企画では日本人として初めて国際学術会議(ISC)の次期会長に選出された東北大学の小谷元子教授をモデレーターとして招聘し、特にアジア・太平洋における数理科学研究者、研究組織をつなぐ国際頭脳循環ハブを想定し、複眼的な議論を展開しました。

*https://www.mext.go.jp/a_menu/mathematicalsciences/index.html

昨年度同様、「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会2021」内のプログラムとして開催しました。イベントを通じて本事業が既存の垣根を超え、数学イノベーション創発のための横串ネットワークの形成に寄与してきたことをアピールする絶好の機会となりました。



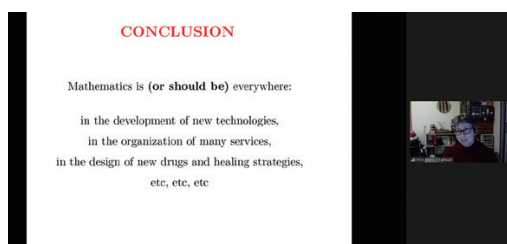
【謝辞】本企画は、AIMaP事業の一環として東北大学の協力を得て開催致しました。

AIMaP公開シンポジウム 「数学イノベーションは社会を変革できるのか～AIMaP成果と今後の戦略的展開～」

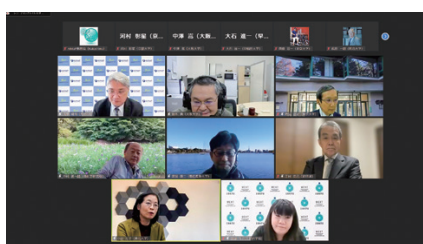
AIMaPの5年間(平成29年度～令和3年度)の活動や成果を総括する企画として、2022年3月10日(木)AIMaP公開シンポジウム「数学イノベーションは社会を変革できるのか～AIMaP成果と今後の戦略的展開～」を実施しました。

産業界、国際応用数理の立場で基調講演をいただき、各協力拠点における諸科学・産業との協働の成果を広く公開しました。AIMaPで培った産学官連携協働のネットワークを維持しつつ、次の展開や新たなフェーズをどのように形作っていくべきか、議論を行いました。冒頭では本事業を通じてより一層の連携関係を構築した数学関連三学会の学会長の先生方よりご挨拶を賜りました。これまで中心となってAIMaP活動を担ってくださった全国の協力拠点代表の皆様に加え、本委託事業の文科省ご担当者様、数学・数理科学の周辺研究・開発や振興に携わる方々、在野のアナリストにも加わっていただき、複眼的な視点で二段のパネルディスカッションを構成し、数学・数理科学そのものの発展と社会課題の解決を通じたプロモティブなアプローチを探索しました。これらに象徴されるように、今回のシンポジウムが立場を超えた知と智の融合、あるいはその在り方を考える上で社会に一石を投じる重要な機会であったと自負しております。150名を超える方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。シンポジウム当日の様態を下記YouTube九大公式チャンネルにてアーカイブ公開しております。ぜひご覧ください。

YouTube URL : <https://youtu.be/AN5HE8ubeBM>



基調講演(Prof. María J. Esteban)



パネル1



パネル2

技術相談・マッチング

(1) AIMaP技術相談窓口の設置と連携体制

数学と諸科学・産業界との連携によるイノベーションの創出を一層促進するため、「AIMaP技術相談窓口」を設置しました。AIMaP技術相談窓口は、全国13協力拠点(幹事拠点IMI+全国12協力拠点)からなるオールジャパン体制のAIMaPネットワークを活用して、諸科学・産業界の課題(ニーズ)と数学・数理科学分野における知見や研究成果(シーズ)とのマッチングを支援して共同研究等の連携の加速を目指すものです。2020年度から、機能強化のためAIMaP技術相談窓口の連携支援役として二名のコーディネーターが配置されました(下図参照)。全国規模ネットワークを活用した数学・数理科学分野に特化したマッチング活動は我が国において先例がなく、その独自の取り組みは高く評価されています。拠点間の連携によってAIMaPのプレゼンスが向上し、数学・数理科学が社会貢献できる可能性を広く知っていただけるようになったのは非常にありがたいことです。



AIMaP技術相談体制の概略図

AIMaP技術相談の活動においては、約3か月に1回開催する「AIMaP定期報告・情報交換会」、不定期に実施する「オンライン意見交換会」等の機会を設けて、拠点間での情報共有・意見交換を活発化させ、拠点間連携に努めました。協力拠点の皆様からは、訴求活動のフィードバック情報、強みとして有するシーズ情報、諸科学・産業界とのコンタクト情報などの有用な情報を共有いただくとともに、連携研究の難しさ、AIMaPに寄せる期待などの貴重なご意見を頂戴いたしました。この場を借りて、協力拠点および関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

(2) コーディネーターによるマッチング活動

コーディネーターによるマッチング活動では2020年度以降の2年間で3桁にのぼる企業コンタクトを行いました。新型コロナ・ウィルスの感染拡大の影響もありながら、2020年度中に企業から技術課題についての相談(健康維持に役立つデバイス開発の課題)を1件受け、現在、数学・数理科学分野と産業界の共同研究に向けて連携がすでに進められています。本事例では、数理課題に加えてライフサイエンス分野の課題も協力拠点へ展開できたことによって複数協力拠点から有用な情報が得られました。最終的には企業と複数協力拠点との間の連携につながる可能性あり、この点においてオールジャパン体制のAIMaPの強みがいた了好事例といえます。コロナ禍における企業活動の停滞もありましたが、2021年度にはいると企業からの相談が次第に増え始めています。AIMaP技術相談窓口におけるマッチング活動を通して、数学・数理科学による課題解決への期待と効果は、予想をはるかに超えて高いことを実感しました。

(3) AIMaP事業終了後に向けて

2021年度末のAIMaP事業終了に伴い、AIMaP技術相談窓口における拠点間連携の機能は、九州大学マス・フォア・インダストリ研究所(IMI)におけるIMI技術相談窓口の一部として引き継がれます。IMIにて可能な活動範囲内にはなりますが、AIMaP事業終了後も引き続き参画される協力拠点の皆様とともに、Post-AIMaP活動の一環として、数学と諸科学・産業界との連携による機動力の基盤となれるよう歩んで参りたいと思います。今後も皆様の変わらぬご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

産業界・諸科学との協働による研究事例の発信

「AIMaPノウハウ事例集」の作成

AIMaPにおいて連携プラットフォームを構築している全国13拠点における連携研究の好事例をグラフィックレコーディングの手法を用いて数学・数理科学の魅力や課題解決のプロセスを少しでもわかりやすく表現し、産業界、諸科学の方によりよく数学・数理科学を利活用いただくための助けとなるよう冊子を作成しました。



Webサイト『AIMaP協働研究事例マップ』の制作 <https://aimap.imi.kyushu-u.ac.jp/map/>

数学・数理科学の生み出す普遍的な知見や価値の汎用性の高さ故に抽象的なイメージが強く、なかなか諸科学・産業界、また広く一般の方にもどういった応用や社会実装が可能であるのかが目に見えて伝わりにくいようです。

数学の技術がどのように応用されるのか、社会実装されてどんな風に課題を解決するのか、専門的な知識がなくても理解しやすいツールがあるとよいとの思いから本WEBサイトを製作したものです。三つの事例集をそれぞれ色とりどりの大陸にみだてています。お気軽にさまざまな事例をクリックして、数学・数理科学が私たちの日常生活のいたるところで活躍する様子をイメージ、体感していただきたいと思います。



AIMaP事務局 編集後記

コロナ禍の下、3度目の卒業・入学シーズンを迎えています。人的ネットワークを構築するための手法が大きく変容し、次世代のソーシャルキャピタル(社会関係資本)に大きなダメージを与えています。新たな出会いや信頼を獲得しながらネットワークを進展させ、新規のイノベーションや既存の枠組みを超えた知を創出することを目指す私たちの活動も同じく非常に厳しい環境におかれました。しかし、どのような難局に接しようと協力拠点の皆様、委託元の文部科学省様はじめ関係各位が一つ一つの課題に丁寧に向き合う胆力のかさすことなく、最後までその道すじを共に歩んでくださったおかげで、本事業のプラットフォームが事業終了後も末永く続くことを願うお声をいただけるまでに成長いたしました。皆様のご厚情と数学・数理科学、あるいは後進や日本の未来を大切に思う優しく強いお気持ちに深謝申し上げます。

AIMaP活動を通じて、苦しい状況であればこそ数学が世の中を照らす光となりうることを強く感じさせていただきました。今後もAIMaPでの豊かな交流が数学・数理科学とその周辺を取り込む薫風となって日本から世界に向け、様々な芽吹きを生むことを祈念しております。

2022年3月
AIMaP事務局

発行

九州大学マス・フォア・インダストリ研究所
AIMaP事務局

〒819-0395 福岡市西区元岡744 W1-D515 TEL:092-802-4494

URL ▶ <https://aimap.imi.kyushu-u.ac.jp> E-mail ▶ office@aimap.imi.kyushu-u.ac.jp

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/AIMaP.IMI>

Twitter ▶ https://twitter.com/AIMaP_IMI

